

### キーワード：

日本ブックデザイン賞  
ブックデザイン  
ブックジャケット  
グラフィックデザイン  
秋山孝ポスター美術館長岡

日本ブックデザイン賞 2019 の一般公募に、本学造形学部デジタル表現デザインコースの学生に学生部門に作品出品を促し、約 10 名の作品がエントリーした。審査結果は、本学造形学部のキム・ミンジ講師からは、ブックデザイン・セルフパブリッシング部門で、銀の本賞を受賞した。また、本学造形学部の学生からは、ブックジャケット・文庫判部門で、銀の本賞を受賞した。学生たちはブックジャケット制作を通じて、自身の作品が外部に批評されることで客観的な物の見方を理解し、日頃目にするブックジャケットに対する意識が高まった。

## 日本ブックデザイン賞 2019



### 日本ブックデザイン賞 2019 作品展

授賞式 2019年10月12日(土)

pm1:00 ~ pm2:30

会期 2019年10月12日(土) ~ 10月17日(木)

am10:00 ~ pm5:00

会場 アオーレ長岡 西棟1階 市民交流ホール  
ホワイトエ

秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) 開館 10 周年記念

日本ブックデザイン賞 特別展 ※要予約

会期 2019年10月5日(土) ~ 27日(日)

開館日 2019年10月5日(土)、6日(日)、13日(日)、  
18日(金)、19日(土)、20日(日)、25日(金)、26日(土)、  
27日(日)

会場 秋山孝ポスター美術館長岡・蔵 (APM・蔵)

今年も秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) が主催するブックデザインのコンペティション「日本ブックデザイン賞 2019」を開催した。各部門ごとに一般の部と学生の部に分かれ、「金の本賞」、「銀の本賞」、「銅の本賞」、「特別賞」の作品を選出し、さらに全ての金の本賞の中から、「グランプリ」1点が選ばれた。今年で5周年を迎える今回の作品展と授賞式は、長岡市のアオーレ長岡の西棟1階市民交流ホール A ホワイトエで開催した。

全国から集まった応募総数 341 点(一般の部:126 点、学生の部:215 点) のから、入賞作品と入選作品、全 196 点 (一般の部:89 点、学生の部:107 点) を一堂に展示した。さらに APM・蔵では APM 開館 10 周年を記念して、2015 年から 2018 年の受賞作品から厳選した作品による特別展も開催した。

### 〈応募部門〉

- ブックジャケット・四六判 部門  
課題図書から選んだ文学作品による  
四六判書籍 (ハードカバー) のブックジャケット  
サイズ: 天地 194mm × 左右 451mm (全面)
- ブックジャケット・文庫判 部門  
課題図書から選んだ文学作品による  
文庫判書籍 (ソフトカバー) のブックジャケット  
サイズ: 天地 148mm × 左右 372mm (全面)
- 装画・四六判 部門  
課題図書から選んだ文学作品による  
四六判書籍 (ハードカバー) の装画  
サイズ: 天地 194mm × 左右 133mm (表 1)
- 装画・文庫判 部門  
課題図書から選んだ文学作品による  
四六判書籍 (ハードカバー) の装画  
サイズ: 天地 148mm × 左右 105mm (表 1)
- ポスター 部門  
課題図書から選んだ文学作品によるポスター  
サイズ: B1 (728mm × 1030mm) タテ位置
- ブックデザイン・セルフパブリッシング 部門  
私家版やリトルプレスなど、企画・編集・制作の行程を自ら行った自己出版の本

- サイズ：A3（297mm × 420mm）以内
- ・ブックデザイン・パブリッシング 部門
- 出版社などから、既に商業出版している本
- サイズ：A3（297mm × 420mm）以内

〈課題図書〉

- ・日本文学
  - 『おくのほそ道』松尾 芭蕉
  - "Oku no Hosomichi" Matsuo Bashō
  - 『山月記』中島 敦
  - "The Moon over the Mountain" Atsushi Nakajima
- ・海外文学
  - 『クリスマス・キャロル』チャールズ・ディケンズ
  - "A Christmas Carol" Charles Dickens
  - 『星の王子さま』サン＝テグジュペリ
  - "The Little Prince" Antoine de Saint-Exupéry
- ・児童文学
  - 『みにくいアヒルの子』
  - ハンス・クリスチャン・アンデルセン
  - "The Ugly Duckling" Hans Christian Andersen
  - 『十五夜お月さん』野口 雨情
  - "Harvest moon" Ujō Noguchi

〈審査員〉

- ・秋山 孝 Takashi Akiyama  
多摩美術大学 教授  
秋山孝ポスター美術館長岡 館長  
審査委員長
- ・大迫 修三 Nobumitsu Oseko  
日本グラフィックデザイナー協会 事務局長
- ・太田 徹也 Tetsuya Ota  
武蔵野美術大学、東京藝術大学 元講師  
グラフィックデザイナー
- ・澤田 泰廣 Yasuhiro Sawada  
多摩美術大学 教授  
グラフィックデザイナー
- ・竹内 オサム Osamu Takeuchi  
嵯峨芸術大学 准教授  
グラフィックデザイナー
- ・豊口 協 Kyo Toyoguchi  
長岡造形大学 名誉教授  
秋山孝ポスター美術館長岡（APM）会長
- ・中垣 信夫 Nobuo Nakagaki  
ミームデザイン学校代表

[引用・参考文献]

「日本ブックデザイン賞2019」作品集

本学造形学部教員受賞・入選作品



〈銀の本賞〉

merry-mj memo journal vol.3

キム ミンジ

一般部門／ブックデザイン・セルフパブリッシング 部門



"Tell me, Mom" - The Mother's Book

キム ミンジ

一般部門／ブックデザイン・パブリッシング 部門

## 本学造形学部生受賞・入選作品

〈ブックジャケット・四六判 部門〉



『山月記』今田 みさと

全体的に暗い印象のある作品であったため、あえてそのイメージとは逆にポップでかわいく手に取ってもらいやすいデザインにした。物語の流れに沿い月に照らされた山と虎に変化する主人公を着ぐるみを使い表現するところが制作している点で楽しくできた。何気なく着ぐるみを身につけているが、最後には本物の虎になってしまい四足歩行になっているところがポイントである。



『山月記』岩科 希実

表表紙に虎となった李徴を、裏表紙に丘の上にたつ袁愴を描いた。2人がお互い別れを告げ、生きる世界が交わることがなく、それぞれにとって友はそれほど離れた存在になってしまったのだということを表した。描いた2人の距離は、物理的な距離と生きる世界の遠さである。水墨画のような雰囲気にする事で、物語にマッチするようにした。



『山月記』牧野 愛美

虎になった李徴と友人の袁愴が茂みの中で出会うシーンをイメージして深緑色を基調とした夜の茂みの中を思わせるような表紙になるようにした。タイトルはそれぞれ象形文字を使用し、歴史ある作品というイメージを印象づけられるようなデザインにした。表紙と背表紙で違いを持たせ、読む前と読んだ後の気持ちの変化を表紙で読みとってもらえればと思う。



『星の王子さま』牧野 愛美

「星の王子さま」という作品が醸し出す壮大な宇宙のイメージとその宇宙に相応する無限の愛というテーマを同時に印象づけられるようなデザインにしようと心がけた。全体的に青緑のような色で宇宙を表現し、バラから放つ光は線で表現し、さらに色にグラデーションを加えることによって光の躍動感を表現した。

〈ブックジャケット・文庫判 部門〉



〈銀の本賞〉

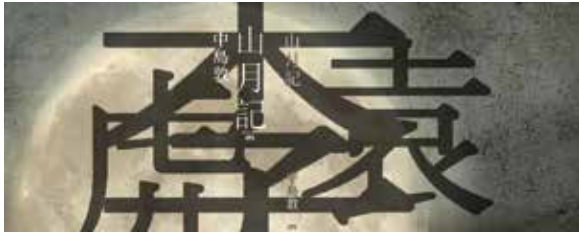
『星の王子さま』岩科 希実

大人ではなく子どもに捧げる本だということを基に、幼い頃の生き生きとして自由な発想にあふれている様を表現したいと思い、手書きのようなタイトルと、キャンパスに色数豊かに物語に登場するモチーフを表現する様子を描いた。子どもの頃に抱いた自由な発想を肯定してくれるような、物語の不思議な雰囲気と世界観を感じてもらえらると思う。



『山月記』岩科 希実

虎となった李徴の、人間としての自分を失いつつある中、かつての友と出会い、また別れ独りになるという諦めや孤独感があるであろう、複雑な心。その後読み手が想像するしかない李徴の心境に思いを巡らせることができるよう、あえて表情のわからない背中側から描いた。



『山月記』大石 光咲

山月記と言えば虎だが、私はまだ読んでいない人に潜入感を持たせないためあえて虎は入れていない。表紙の文字は虎李袁だが、山月記を読んだ後に意味が理解できるような文字を選び、読み終わった後にも楽しめるデザインにした。漢字特有の直線の面白さ、線の強弱や文字の太さにリズムを付け、それぞれの漢字同士が混同しないように、かつ迫力を損なわないよう工夫した。



『みにくいアヒルの子』押尾 ひかる

アヒルの模様を不規則な柄にして、青や紫といった寒色を使う事で「醜い」という暗いイメージを表現している。そして私は何が「醜い」か、という度合いは人によって変わる物だと考えている。100人にみにくいアヒルの容姿を想像させれば、一人一人違う姿を思い浮かべるのではないだろうか。一体一体異なる模様で並ぶアヒル達は、そんな人によって変わるイメージを表現している。



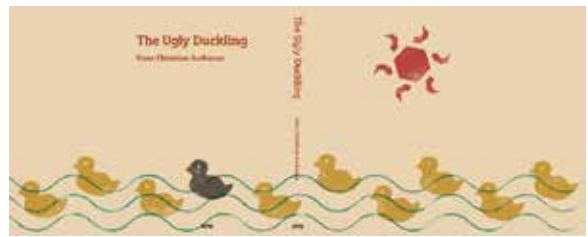
『みにくいアヒルの子』久保田 綾音

醜いアヒルの子が水面下に映る、あるかもしれない可能性の自分に想いを馳せている情景を、表紙のデザインに落とし込んだ。本来のアヒルの姿を連想させるイエローのカラーをアクセントとして入れることで、醜いアヒルの子のグレーカラーとの対比や皮肉さを表現している。またグレーカラーも様々な色彩のグレーを使い、視覚的にも楽しめるデザインになっている。



『星の王子さま』杉浦 教仁

「ぼく」と「王子」が砂漠で出会う舞台を絵描いた。最初はこの物語に出てくる飛行機など多くの物を描いていたが自身が表現したいことを考えたときにそれらを無くすことで切なさと壮大さを表現した。夜空はグラデーションが出るように色に変化をつけ、砂漠の砂は自然の荒々しさが出るようと複数の色で表現した。細かい色の変化も見ながら楽しんでもらいたい。



『みにくいアヒルの子』望月 有季菜

「みにくいアヒルの子」は、ハンス・クリスチャン・アンデルセン童話で、彼の童話は現実的な厳しさを持つ内容が多いのが特徴だ。その為、あまり明るすぎないようにしつつ、一方で童話の持つ温かみを感じさせるデザインにしたいと考えた。私が思う温かみのあるデザインは、手作り感のあるデザインだ。テキストやイラストを手押しスタンプ風にし、台紙もテクスチャで画用紙の再現をし、手作り感を目指した。



『みにくいアヒルの子』渡邊 奈美

白鳥を羨ましそうに見上げるアヒルの子がどのような運命を迎えるのかを読者に想像させる表紙にしたいと考えた。みにくいアヒルの子は孤独でありながらも物語の中では主人公であるということを強調するため、アヒルの子を画面の中央近くに置き、周りを鮮やかな緑で統一して彼の体の色を引き立たせるなどの工夫をした。

〈装画・四六判 部門〉



『星の王子さま』岩科 希実

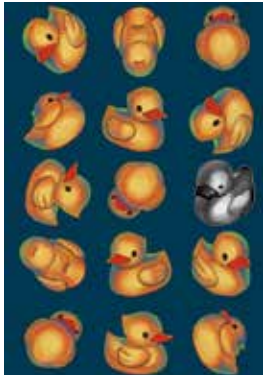
あえてゾウや足跡、空の模様を途中で切ることで、その左右にもまだまだ空間が広がっているように表現した。ふにゃりとした線や荒い塗りで、柔らかい雰囲気や、物語の暖かさを感じてもらえるよう心がけた。

〈装画・四六判 部門〉



『山月記』岩科 希実

紙のしわがあるかのような質感や墨が染み込んだような滲み、さまざまな濃淡を意識して描いた。濃淡による空気感や距離感から、平面から山々が背後にそびえるような雄大さを表現することを目指した。



『みにくいアヒルの子』岩科 希実

たくさんの丸い目をしたカラーのアヒルたちの中に、一羽だけじとりとした目のモノクロの雛が混ざること、タイトル通り群れの中で一羽だけ異なる『みにくい』と言われる様子を表現しようと思った。



アオーレ長岡 西棟 1階 市民交流ホール ホワイエ会場

